

FGC NEWS



公益財団法人 世界こども財団

FGC—Foundation for Global Children

No.15

May 2019



国際交流・支援活動

- 新留学生紹介
- 各国活動報告
 - エリトリア外務大臣オスマン氏来日
 - ブータン国際マラソン
- 留学生活動報告

東日本大震災支援

- カウンセリング支援事業報告
- ### 事務局より





新しい星槎の仲間

この春、エリトリア、ミャンマーから新しいスポーツ奨学生 6 名を迎えました！

スポーツ奨学生受け入れ 3 年目となる今年は、エリトリアから陸上競技に 3 名、ミャンマーから空手競技に 3 名、計 6 名の高校生達が星槎での生活を始めました。彼らは神奈川県中郡大磯町にある星槎国際高等学校湘南学習センターの緑溢れるキャンパスで学び、星槎の仲間たちと寮で共同生活をしながら陸上や空手のトレーニングに励みます。2019 年 4 月 10 日（水）の入学式では、新しい制服に身を包み、期待と不安に胸を膨らませながら式に臨み星槎の仲間達に自己紹介しました。

留学生達は、「自国と日本の友好の架け橋としてスポーツ、勉強、学生生活をがんばります。」「大変なことがあってもスポーツ選手には強い気持ちは必要なので、自分で解決する気持ちを持って、そして仲間と助け合いながら乗り越えていきます。」と高い意欲を持って、これからの 3 年間



入学式壇上で挨拶するスポーツ奨学生達（左からエリトリアのメルハウイ君、ダイモン君、ナトナエル君、ミャンマーのヤミンさん、スーさん、カウン君）。

星槎で仲間達と切磋琢磨しながらそれぞれの専攻スポーツの技術を日本で磨いていきます。

留学生達の生活は世界こども財団、星槎国際湘南教職員が一丸となって支えています。また、既に星槎国際湘南で学んでいる 5 名の留学生達

も先輩として積極的に新留学生をサポートし日々頼もしい姿を見せています。このように留学生を迎えることができるのも、何よりも皆さまのご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。「ゆっくり、されど着実に。先々の未来まで続く活動を。」これからも私達は未来へ向けて世界のこども達、青少年達への支援を続けていきます。

(FGC 井上美智代)



星槎国際高等学校、関東合同入学式に出席する新留学生



ブータン柔道留学生来日

SEISA-BOC スカラシップ奨学プログラムの陸上、アーチェリーに次ぐ2名が3月末に来日しました。ブータン柔道協会（BJA）から来た2人の名前は、タンディン・ワンチュク君とキンレイ・ツェリン君。北海道の星槎道都大学へ入学し、スポーツマネージメントを専攻、柔道部に所属します。2人は小学生からの幼馴染みであり8年前に友人の誘いから柔道と出会い、友人と一緒に柔道を始めました。階級は違いますが、同じ年ということもあり切磋

琢磨し練習に励んでいます。将来、2人はブータンへ戻り、柔道家として、後進を指導したいと言っています。そのためにも、道都大学で柔道を学ぶことは勿論のこと、コーチング技術、セルフケア、スポーツそのものを学び、クラブ運営を学んでいきます。



星槎道都大学入学式の様子

ブータン柔道協会（BJA）は、2010年にブータン最初の柔道クラブとして発足しました。現在、ティンプー市各地から小学生を中心に多くのこども達が練習に参加しており、ブータン柔道協会には約140人の柔道家が所属しています。2016年、ブータン柔道協会は、国際柔道連盟の加盟団体として認められ、2017年にはジュニアの国際大会にブータンの選手が初めて出場することになりました。

この2人が晴れて来日し、星槎の仲間として加わりました。勉強・スポーツだけでなくあらゆるものを吸収し、近い将来ブータンのスポーツの発展に寄与し、日本とブータン、両国の懸け橋となる存在になってもらうべく我々も一丸となって支援していきます。（FGC 石田博彰）



入学式に出席するタンディン・ワンチュク君とキンレイ・ツェリン君



エリトリアからオスマン・サレー 外務大臣が来日



オスマン・サレー外務大臣

エリトリアより、2019年3月25日（月）から29日（金）までの間、オスマン・サレー外務大臣が、ヤマネ大統領顧問とともに公式訪日しました。オスマン外務大臣にとっては、2008年の第4回アフリカ開発会議以来2度目の訪日となります。

短い滞在期間ではありましたが、オスマン外務大臣は精力的に公務をこなされ、3月26日（火）には小田原の鈴廣^{すずひろ}釜^{かまぼこ}本店を視察されました。世界子ども財団では5月末にエリトリアを訪問する予定ですが、その際に鈴廣のみなさんも現地を訪問し、豊富な海洋資源をもつエリトリアでのビジネスの可能性を検討します。オスマン外務大臣は鈴廣の先進的な生産設備や商品開発に関心を寄せ、協力を約束されました。

同日夕には、都内で駐日エリトリア大使館の主催、星槎グループ及び

世界子ども財団の支援によるレセプションが催されました。レセプションは、エスティファノス駐日エリトリア大使によるエリトリアの歴史や文化のプレゼンテーションによって始まりました。

つづいて壇上に上がったオスマン外務大臣は、スピーチの冒頭で天皇陛下が退位されることへの畏敬の念、そしてそのタイミングで来日できた



鈴廣蒲鉾本社を訪問



レセプションでプレゼンテーションを行うエスティファノス駐日大使



星槎の留学生たちもレセプションに参加

ことへの感謝の気持ちを述べました。また昨年7月に、エリトリアとエチオピアが20年ぶりに外交関係を再開できたことへの喜びと共に、日本とエリトリアの友好関係が一段と深まることへの期待を表しました。

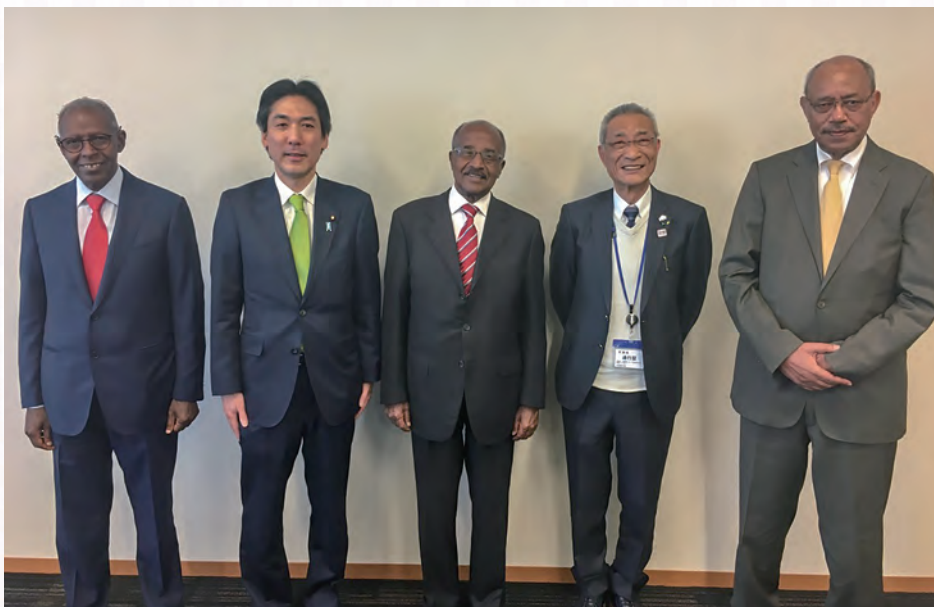
会場にはアフリカ各国の大使館からの来賓も多く、歓談の時間には活発な交流も行われました。星槎国際湘南で学ぶエリトリアからの留学生たちが壇上に上がり、日本語で自己紹介の挨拶をする場面もありました。星槎の留学生だけでなく、留学や就業など日本の各地で活動しているエリトリア出身の方々も集まり、貴重なふれあいの場となりました。また本レセプションには、星槎グループとともにエリトリアと2020年東京オリンピ

ック・パラリンピック大会の事前キャンプ協定を結んでいる神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町の各ホストタウンのみなさんも出席され、来年へ向けてさらなる支援と協力を進めていく旨をお話いただきました。

さらに3月28日（木）には、衆議院第二議員会館にて会談を行い、オスマン外務大臣、エスティファノス駐日大使と、城内実環境副大臣、そして世界こども財団の宮澤保夫理事長が一同に会し、スポーツ、産業、環境といった観点からこれからの協働へ向けてじっくりと協議を行いました。

日本とエリトリア、新しい時代に向かって経済、文化、医療、教育、環境といった様々な分野での協力関係を更に強化して行くことが期待されま

す。こうした動きは、これからの未来を担うこどもたちや青少年に、夢や希望を与えることでしょう。世界こども財団では今年5月後半に現地を訪問し、さらに充実したプログラムへ向けて協議を行い、取り組んでいきます。今後も皆さまからのご支援をよろしくお願いします。（FGC 石井洋祐）



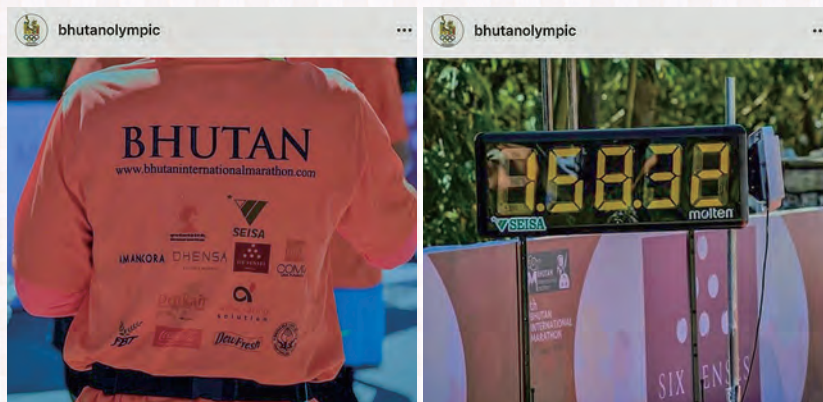
（左から）会談に出席したヤマネ大統領顧問、城内環境副大臣、オスマン外務大臣、FGC 宮澤理事長、エスティファノス駐日大使



ブータン国際マラソン

ブータン国際マラソン（BIM）は、首都ティンブー市から約72キロ離れた古都プナカ県で毎春開催されています。ティンブーからプナカまで、車で片道3時間程掛かります。BIMのマラソンコースは、1回目が実施された6年前から変更されていません。毎年同じコースの設定で実施されており、今年（2019年3月2日（土））に開催されました。参加人数は去年よりも10人多い総勢379人のランナー達がプナカを駆け抜けました。

BIMは、ブータンオリンピック委員会（BOC）が主催しており、世界こども財団・星槎グループは、3年前からマラソン大会を通じて、スポーツの普及、国際交流、発展の支援を行っています。一昨年、昨年は、星槎道都大学陸上部選手2名とコーチを派遣、本物の走りを披露しました。一昨年のハーフマラソンの部では優勝、昨年のフルマラソンの部でも優勝と2年連続でトップを飾りました。今年も、BOC／BIM運営委員会からの強い要望もあり、スポーツの発展のサポートの一環から日本モルテン製デジタルタイマーを2台寄贈し、スタート地点とゴール地



世界こども財団・星槎グループもスポンサーの一員として大会を盛り上げます！ BIM運営委員会へ寄贈したデジタルタイマー

点に設置し大会を盛り上げました。

BIMのマラソンのコースは、ゴールのある歴史的建造物プナカ・ゾンまでの間、ブータンの村の中を走り抜けることとなります。その田舎道は、地理学・文化的にも興味深く神秘的です。本大会では、BOC会長であるジゲル・ウゲン・ワンチュク王子が自らマウンテンバイクに民族衣装のゴを着て乗り、参加者をサポートしています。さらには、ランナーと手を合わせ、ハイタッチをして応援しました。この大会で得られた利益は、ブータン王国のジュニアオリピアン育成に100%還元されています。来年のBIMは、2020年3月7日（土）に今年同様プナカにて開催予定となっており、エントリーの受付も始まっています。（FGC 石田博彰）



神秘的なマラソンコース



吊り橋を駆け抜けるランナーたち



夢に向かって日々練習!

2019年2月2日(土)、神奈川県内にある横須賀アリーナにてアーチェリーの高校新人インドア選手権が行われ、ブータンからの留学生である、ニダップ君が出場しました。今回の大会は、インドア競技と呼ばれ18メートルの距離で室内で実施される競技です。結果は1回目243点、2回目251点で、合計494点を出し、17位となりました。インドア大会は今回初出場となり、いつも練習しているよりも小さく最初は戸惑いもありましたが、インドア大会特有のルールを覚えることができました。はじめての試合で感じた事は、今後の課題発見のためにも重要な事です。

「インターハイ予選に向けて、今回の経験を活かして練習していきます!」とニダップ君からは、力強いコメントがありました。今後の活躍に私たちも期待しています。



熱心に練習に取り組むニダップ君とソナムさん

一方ソナムさんは、ロビンフッドと呼ばれる、刺さった矢にもう一度矢を当てる大技を達成しました。練習中ではありますが、アーチェリー選手なら誰でも憧れる大技です。射ち方も日に日に上手くなり、表情にも自信が表れてきています。

また、生活面では3月にはエリトリアから、4月上旬にはミャンマーから新たに留学生が来日しました。来日当初から、すでに日本で生活をしている留学生が率先して、日本の暮らし方や日本語の挨拶の仕方など、先輩としていろいろなことを自ら伝えてくれています。新留学生も最初は不安そうな顔をしていましたが、先輩たちの優しさや気遣いのおかげで、今では明るく元気に活動し、仲間として打ち解けることができました。今までは自分の事しか出来なかった子も、後輩が入ってきて相手を思いやる気持ちを持って行動できるようになりました。現留学生も日に日に成長し

ている姿が垣間見えた瞬間です。これからも、多くのことを経験し、成長していてもらいたいです。(FGC 小野木愛)



厳しい練習も持ち前の明るさで乗り切ります!



日に日に上達しています



小田原尊徳マラソンに出場 デジェン君、見事優勝！

2019年3月10日（日）に小田原で、第32回小田原尊徳マラソン大会が開催され、デジェン君とアヌール君が、10キロの部に出場しました。尊徳マラソンは、可能な限り公道を避け安全に配慮し、酒匂川沿いのサイクリングコースを中心に走ります。その環境が「走ることに集中できる」と、年々人気が高まっています。今年も北海道から岡山まで、日本全国から2,191人が参加しました。

当日は雨が心配されましたが、晴天に恵まれ、大会は大いに盛り上がりました。デジェン君にとっては、日本における10キロレースは初挑戦です。30分で走ることを目標に、レース前は少し不安そうな顔をしていましたが、結果は22秒も速い29分38秒となり、見事優勝を飾ることができました。アヌール君にとっては、2回目の10キロレースの挑戦で



見事1位で走り切ったデジェン君

す。しかし3キロ地点で足を痛めてしまい、思うように走ることができませんでした。それでも32分17秒でゴールインし、結果は3位入賞となりました。

また、来日したばかりの新留学生たちも会場を訪れ、日本のロードレース大会の大きさに驚いていました。エリトリアでは、こんなにも大勢の市民ランナーが参加する大会はないそうです。またブースにはエリトリア料理アリチャもあり、食べることができて嬉しそうにしていました。

2020年東京オリンピック、パラリンピック大会まで1年をきりました。それぞれの国の代表を目指してトレーニングに励む留学生たちの今後の活躍にご期待いただくとともに、皆様の暖かいご支援をよろしくお願いします。

(FGC 小野木愛)



故郷エリトリア料理も楽しむことができました



ミャンマーからの留学生 空手稽古を開始！



平塚工科高校での合同練習



道場での組手の稽古

冒頭でもお伝えしましたが、世界こども財団と星槎グループではこの春、新たにミャンマーからカウン君、ヤミンさん、スーさんの留学生3名を迎え入れました。彼らは星槎国際湘南に入学し、慣れない日本での生活、文化や言葉の違いに最初は不安や疲れも見せていましたが、いよいよ空手の稽古がはじまると、毎日元気いっぱいに取り組んでいます。留学生たちは星槎の職員が教える道場だけでなく、神奈川県立平塚工科高等学校にもご協力をいただいて、同世代の日本人選手との合同練習にも励んでいます。ミャンマーの空手競技のレベルは日本と比べると低く、また彼らも長い競技経験はないのですが、さすがはミャンマーのスポーツ体育学校で選抜された選手たち、日本の空手家たちも「想像以上に、できる」と驚いていました。

彼らのデビュー戦は5月26日（日）の高校総体予選（組手）です。ミャンマーと日本で競技の方式にも多少の違いがあり、現在は試合に向けて、日本のルールに慣れながら、徐々に激しい練習に励んでいます。神奈川県空手は強豪揃いで

すが、「いつかNo.1になります！」と目標を語ってくれました。ミャンマーの若き空手家たちの活躍へのご声援を、ぜひよろしくお願いします。

（FGC 石井洋祐）



稽古の合間、鎌倉を訪問（左から：スーさん、ヤミンさん、カウン君）

復興支援緊急カウンセリング事業 継続9年目！



カウンセリングを実施している小高小学校

復興支援、緊急カウンセリング事業を継続して9年目を迎えました。東日本大震災発生1ヶ月後より、福島県浜通り地区（相馬市、南相馬市）に教育カウンセリングを目的としてカウンセラーを派遣しています。

震災後4ヶ月は混乱状態で当初は情緒が安定しない子どもたちもみられ、大人も対応に困惑していました。スクールカウンセラーとしてこどものPTSD予防としてメンタルサポートをメインに介入しましたが、カウンセリングは敷居が高く、自ら気軽に相談しにくいという部分があります。（生徒は精神的な病気と思われるとの印象が強く、それは一部教員にも見られる。）そこで、スクリーニングを兼ねて健康チェックとしてカウンセリングを実施しました。不定愁訴（頭痛・腹痛・食

欲不振・眠れない・イライラする）を訴える児童生徒は存在し、小学校高学年以降の児童生徒には周囲の状況を察して口にできないこどももいます。この状況の中では震災との関連づけを強める可能性もありました。不定愁訴を解決するため、現状において自らできることを模索し問題解決に向けた活動を中心に行いました。

今春、震災後8年が経過しました。南相馬市小高区の避難指示解除を受けて小高区内本校舎で学校が再開し2年が経過しましたが、沿岸部の地域のコミュニティは崩壊したままで、解除を受けて戻ってきた家族も少なく、未だに震災前に比べ大きく変化した環境のなかでの生活が続いています。

子どもたちは震災による一次的なストレス反応



高台に位置する小高中学校

はほぼ見られなくなっていますが、現状を受け止めながら学校生活を過ごしており、表面上は元気にふるまっています。

しかし、健康検診・内部被ばく検査・外部被ばく検査・甲状腺検査などの検査を定期的に受けるなど、被災地の中においても他の地域にはない精神的な負担がかかっています。復興が進んでいるといわれておりますが、まだ仮設住宅等での生活が継続している者もあり、家庭内でストレスを抱えている子どもたちも少なくありません。小学校はイレギュラーな体制だけに、先生方がストレスを抱えやすい状況にあり、第3者的立場から授業運営のアドバイスや家庭環境等の話を聞く職場風土が必要だと感じます。

また、中学校でも先生方のストレス度が高まっています。これは子どもよりも保護者（大人）の将来に対する不安が震災後より増えてきていることが起因していると考えられます。親の心の安定にもカウンセリングの導入は有効で、結果として子どもの精神的安定に繋がると想定されます。学校からは、継続的に子どもの成長を見ているのは、相談するにもありがたいし、安心していただけるとの評価もいただいています。

保護者には生活の格差が生じており、先の見通しが立たない不安感と焦燥感を持っています。子ども以上にストレスを抱えておりメンタルケアが必要な

状態になっています。保護者のストレスはこどもの発達を阻害する要因ともなるため、保護者のメンタルケアは子どもたちが健やかに成長していくうえで今後さらに必要となってくるでしょう。

教員は人間関係や生活習慣等でストレスを抱えている子どもたちに対し、さらには保護者に対して専門的なアセスメントと支援・対応が必要となってきました。

これらに対処する意味でも、具体的な研修とカウンセラーによる後方支援を継続することで気になるこどもや保護者の発見を早め、教員の負担を軽減できると考えます。さらにはこども、保護者に対する情報を共有していく場面を数多く作り出すことでより全方位的に教育環境を整えていくことができ、かつ必要だと考えます。

南相馬市でのカウンセリングについては、教育現場からは教員の教師としての生き方やメンタル面での相談にものってもらえたこと、不登校気味の生徒と保健室との連携にも協力体制が構築できたこと、県からの派遣のカウンセラーとの連携が上手く取れたこと、家庭訪問等担任業務のサポートをしていただけたことなど有効的な手段を打つこともできたと報告があがってきています。

（星槎グループ 尾崎達也）



復興の中心地 小高区役所

2019年度 個人会員・法人会員を募集しています

世界こども財団の活動は、みなさまのあたたかい心により支えられています。
こどもたちの未来づくりのため、ご参加とご協力をお願い申し上げます。



賛助会員

個人会員 年会費

6,000 円 / 一口

法人会員 年会費

120,000 円 / 一口

年 4 回 FGC ニュースをお届けいたします。

ご寄付

世界のこどもたちに、将来の夢と希望を！ 金額を問わず、随時受け付けております。

詳しくは、世界こども財団のホームページまたは、お気軽に事務局（電話番号：0463-74-5359）までお問い合わせください。

2019年1月～2019年3月 寄付モノ・寄付コラボ商品の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本	11,469	自動販売機（販売社 13 社より）売上より	955,089
合 計	11,469	合 計	955,089

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。

(2019 年 3 月末)

ご協力いただいている企業・団体様（順不同）

●アマチュア無線関係の皆様 ●(株)トキコ・プランニング ●(株)ルミネ ●(株)ルミネクリエイツ ●コグメド・ジャパン(株) ●(株)全日警横浜支社 ●山下寝具(株) ●(有)オク・インターナショナル ●(株)興学社 ●(株)ユーミーホールディングス ●東海プラント(株) ●はやし亭 ●フルサワ印刷(株) ●道東基礎工業(株) ●伊藤平左衛門建築事務所 ●(社)日本ミャンマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●横浜リテラ ●(株)バリューブックス ●(株)湘南ウイル ●(株)ダイドードリンコ ●西武商事(株) ●コーシンサントリービバレッジ ●(株)八洋府中営業所 ●コカ・コーライーストジャパン(株) ●コカ・コーラウエスト(株) ●北海道コカ・コーラボトリング(株) ●東京麒麟ビバレッジサービス(株) ●北海道麒麟ビバレッジサービス(株) ●麒麟ビバレッジバリューベンダー(株) ●北海道ベンディング(株) ●(株)ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事(株) ●(有)安田コーポレーション ●大蔵屋商事(株) ●FV ジャパン(株) ●合同会社 SV 北陸 ●(有)山川屋 ●学校法人武蔵野学院 ●ワットマンスタイル二宮店 ●ツルセミ ●みんな電力(株) ●(株)プリンスホテル ●箱根建設(株) ●(株)JTB コーポレートセールス ●富士屋ホテル(株) ●(株)アストロ ●(株)プロコミュニケーション ●(有)ケンセー ●(株)大塚商会 ●東京体育用品(株) ●共栄建設(株) ●(株)カナオリ ●トレーラーハウスデベロップメント(株) ●(株)g-3 ●サントリービバレッジ(株)北海道営業本部 ●三基工業(株) ●浜松帝国警備保障(株) ●(有)丁 ●京都ハウジング(株) ●学びリンク(株) ●NPO 法人トータルケアセンター ●(有)左衛門 ●(株)ドリーム ●学校法人田島学園 ●(株)山一地所 ●医療法人社団鉄匠会 ●(株)伊藤園 ●FTI (株) ●(株)みやざき ●アイリスチトセ(株) ●(株)鈴廣蒲鉾本店 ●小田原ヤクルト販売(株) ●(株)エナリス ●(株)トップランドコーポレーション ●星友会 ●星親会 ●星睦会 ●星桜全国生徒会

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

上から ●エリトリアから訪日したオスマン外務大臣のレセプションにて、留学生たちとともに ●入学式で同級生とクラス写真に収まる新スポーツ奨学生達（上段左から、エリトリアのメルハウイ君、ナトナエル君、ダイヤモンド君） ●空手競技留学生、ミャンマーより来日（左からスーさん、カウン君、ヤミンさん、ミャンマー保健スポーツ省オリビアさん） ●ブータンより2名の柔道留学生（左からタンティン・ワンチュク君、キンレイ・ツェリン君）



2019 年 5 月発行

公益財団法人 世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2（星桜グループ内）

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索！

印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

